

第6回評価委員会における意見の概要

(委員の意見)

教 育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 能力による習熟度別クラス編成や成績評価、オフィスアワー等、国立大学法人の中期計画を見ると、もっと具体的な文言が入っている。また、語学教育についても、広島大学のように、TOEICに関する具体的な目標到達度、活用方法にも触れるべきだと思う。こういった点が、他の国立大学法人に比べて遅れている。 ・ 国立大学が法人化されて3年目を迎え、具体的な実績報告が公開されてきている。公立大学法人は1年遅れて法人化しており、国立大学法人では、民間企業に比べ数値目標が甘いという指摘がある。国立大学法人を参考に、数値目標を入れられるところは入れてほしい。 ・ GPAについても、国立大学法人より後発で行う以上、国立大学法人の良い所は取り入れた方が良いのではないか。 ・ 教養教育に関する記述が弱い。教養教育は、大学の個性が出る。社会の実態に即した教育など、もう少し踏み込んだ内容を盛り込んだ方が良い。 ・ 看護学部は、学部も大学院も「地域医療に貢献」と記述されているが、内容が抽象的であるため、より適正な表現となるよう検討してほしい。 ・ 教養教育推進本部は、設置と記述されているが、設置することではなく、構築することが目的である。設置で計画が終了するのではなく、設置後の運営についても明記すべきである。 ・ 学生参加型など、専門教育での内容を教養教育でも実施できないか。 ・ 教養教育推進体制の確立と、教養教育の充実のタイミングがあっていない。教養教育の充実を、推進体制の目標年度に合わせて早めること。
研 究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医学、薬学、看護学の連携について、研究、教育、実践それぞれの部分で、どのように連携するのか、明確になっていない。 ・ 研究科ごとに研究成果等の目標を設定し、具体的に年度計画を定める必要がある。定性的でなく、適切に自己点検評価できるよう項目を整理してほしい。

<p>社会貢献</p> <p>国際交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産学官連携と国際交流について、計画が抽象的である。 ・ 推進という言葉は、どこの大学の中期計画でも表記しているが、具体的にどうしていくのか、中期計画を見ても伝わらない。具体的なイメージをつけてほしい。 ・ 学生の国際交流について、数値を盛り込むと良い。
<p>附属病院</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平均在院日数20日は低すぎる。 ・ 病院長の権限強化について、権限に対する責任があり、また、それをチェックする機能が必要である。権限と責任をセットにして病院長に与え、それをチェックする機能を設けた方が、病院長も運営をしやすと思う。 ・ 病院長が、予算達成責任を明確にするためのサポートシステムが必要。この点に関する記述が弱い。
<p>業務運営</p> <p>財務内容の改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内部監査の機能強化が必要である。法人内で内部監査を行うセクションを設置して常時監視するシステムを構築すべきである。 ・ 例えば1%削減について、一律削減するのではなく、どこを削減するのかについて、理事長が法人の経営を正しく判断するため、きちんと経営分析を行うセクションが必要である。 ・ 公的な資金をどのように使ったのか、検証することが記載されていない。
<p>予算、収支計画及び資金計画～業務運営等に関する規則で定める事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料要求 平成18年度予算 平成17年度予算を法人会計の形式にしたもの

(設置者側の意見)

<p>全体</p>	<p>目標項目と整合させた数値目標と、実施目標の整理が必要である。</p> <p>前文で2つの重点項目があるが、進行管理はどのように行うのか明確にする必要がある。</p> <p>内部監査機能の整備を含めた、法人としての倫理の保持に関する規程を整備することが必要である。</p> <p>自己点検評価について、中期計画との進捗状況のチェックと関連させながら、評価の時期等を明確にする必要がある。</p>
-----------	---